

春の企画展示

国際北斎会議開催 20 周年 「北斎ゆかりのまちから世界へ」を 開催しています

嘉永2(1849)年4月 18 日、日本が世界に誇る浮世絵師・葛飾北斎が、画才に満ちた生涯を閉じました。その没後 150 年目を迎えた平成 10 (1998)年4月 19 日から 22 日までの4日間、小布施町で「第三回国際北斎会議 in 小布施」が開催されました。

国際北斎会議は、葛飾北斎に関する国際的な学術会議で、たったひとりの日本人画家が世界を舞台に論じられるという他に例を見ないプロジェクトでした。北斎研究において、世界のトップクラスの学者らが研究成果を発表するとともに情報を交



写真: プレイベント「長屋祭り小布施」
(平成 9 年 10 月 17~20 日)[写真提供 松下電工(当時)]

換しあう、国際的にも権威のある会議の開催が小布施の地で実現したのです。

また、単なる国際会議の開催のみに留まらず、目前に迫る21世紀と国際化時代を見据え、北斎を通じて歴史や伝統、優れた芸術文化に触れるとともに、郷土に息づく質の高い文化を再認識し、その熟成と国内外への発信を行う町民総参加の取り組みとするために、『小布施に継がれる北斎と江戸文化』をテーマに「北斎フェスティバル」と題して、多彩なイベントが展開されました。

今回の展示では、会議期間中、15 万人もの人出で賑わいを見せたこの一大イベントを、関連写真や資料で振り返ります。この機会にぜひ、お出かけください。(9月 22 日まで開催中)



写真:「野村万作・萬斎狂言特別公演」で披露された中学生の「雀踊り」(平成 10 年4月 21 日)



写真: 開館記念特別展示の解説(平成 25 年4月 24 日)

-文書館開館5周年-

小布施町文書館は、平成 25 年4月 24 日に開館し、5周年を迎えました。

公文書館の設置は、全国の地方公共団体の中で 64 番目、全国の町村では5番目、県下の市町村では3番目という早さでした。また、町村が設置する公文書館の中で、小布施町は文書保存の根拠として公文書管理条例を全国で初めて制定しました。